

(様式)

県出資等外郭団体評価書

団体名	(財)長野県アイバンク・臓器移植推進協会
-----	----------------------

項目	団体の自己評価	県評価
団体の目的・使命(存在意義)	A	B
事業の実施状況 (効率性、財務内容を含む。)	A	B
目的の達成状況 (期待された成果が得られているか。)	A	B
改革基本方針の進捗状況	B	B
今後の事業執行上の課題	B	B

添付書類：決算書、別に定める改革状況検証シート

団体の目的・使命は、角膜の斡旋業務と臓器移植の普及啓発と明確であり、重要性に変化がない。 B

単年度の決算では、16～18年度は3年連続赤字であったが、19年度(729千円)20年度(689千円)21年度(3,728千円)の黒字となった。公益事業費の節減と基本財産の運用益の増による黒字幅の拡大であるが、少ない予算の中で事業遂行の努力をしていることは認められる。 B

角膜移植者数が17年度37人、18年度25人、19年度24人と減少傾向にあったが、20年度は46人と増加に転じた。しかし、21年度は逆に35人に減少した。 B

改革基本方針のとおり、県や保健所の職員が臓器移植推進強調月間の普及啓発に参加するとともに、協会への補助を推進している。また、角膜提供者への知事名での感謝状を贈呈した。 B

献眼登録者数については、19年度の1,434人を底に、20年度1,688人、21年度1,706人、また献眼数については、19年度の27人を底に、20年度59人、21年度42人と上向いてきており、普及啓発の努力が見られるものの、引き続き、協会への協力に努める必要はある。 B